

北陸がんプロフェッショナル養成プログラム市民公開講座 みんなで拓こう 新しいがん治療への道

～最近注目の高度・先進治療および臨床試験・治験～

北陸がんプロフェッショナル養成プログラムの市民公開講座「みんなで拓こう新しいがん治療への道～最近注目の高度・先進治療および臨床試験・治験～」はこのほど、北國新聞交流ホールで開かれました。金沢大学と金沢先進医学センターの研究者ら5人が、がん治療法開発の最前線を紹介しました。並木幹夫（北陸がんプロ統括コーディネーター）、元雄良治（金沢医科大病院集学的がん治療センター長）の両氏が座長を務めました。

【主催】北陸がんプロフェッショナル養成プログラム（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学）
NPO法人がんプロフェッショナル認定機構、中外製薬㈱、北國新聞社、金沢ケーブルテレビネット㈱
【後援】石川県医師会、金沢市医師会、テレビ金沢

がん治療の新たな 腫瘍免疫療法

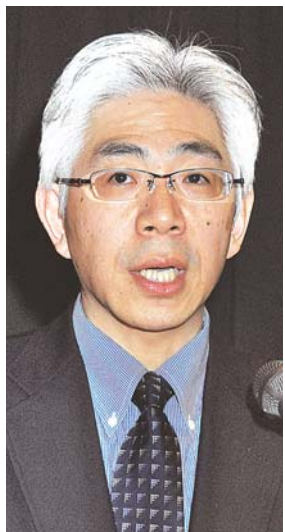
和田道彦氏（医療法人社団 金沢先進医学センター
個別化医療センター長）

相乗効果、再発予防に注目

金沢先進医学センターは昨年7月開設され、私どもの個別化医療センターは、実質的に10月から診療を開始、免疫療法に取り組んでいます。

免疫の仕組みについてはこの20年の間に徐々に解明され、第4世代といわれる免疫療法へと進

展しています。免疫で主に活躍するのは、白血球の中の樹状細胞とT細胞です。樹状細胞は、がん細胞を摂取し「がんの目印」を探索して、がんだけがつかるとたんぱく質の一部（がん特異抗原）を切り出す。これがペプチドです。がん攻撃の司令官である樹



新たな局所治療としての ラジオ波焼灼術

香田 渉氏（金沢大学附属病院放射線科 助教）

ラジオ波焼灼術（RFA）は、電極針をCT、超音波などの画像を

体にやさしい根治療法

痛みを和らげるためにRFAが実施されることがあります。いずれの腫瘍でも再発時に繰り返して実施できるのも強みといえます。これらの腫瘍に対するRFAは先進医療としても取り組まれており、低侵襲治療の可能性は広がっています。

見ながら経皮的に腫瘍に刺し、高熱で凝固壊死させる局所治療です。治療可能な腫瘍の大きさは3センチくらいまで、適切な症例選択が必要ですが、低侵襲で根治性が高く、再発時に再治療が可能などのメリットがあります。欧米では1990年代より臨床応用され、肝がんのほか、腎がん、肺がんなどに対しても行われており、術後の腎不全や呼吸不全を回避できる体によさしい根治的療法といわれています。

新たながん治療が生まれるまで 臨床試験・治験って何??

松嶋由紀子氏（金沢大学附属病院臨床試験管理センター副センター長）



臨床試験とは、患者さんに協力を得て「新しい治療法の候補」の有効性や安全性を調べる試験のことをいい、臨床試験のうち、薬や機器の候補を薬と認めてもらうために実施するものを治験といえます。

臨床試験は、ルールを守って実施されます。ヒトを対象とする医学研究の倫理原則は「ヘルシンキ宣言」（1964年）にうたわれています。研究に参加される方の生命・健康・プライバシー及び尊厳を守ることが、医学研究に携わる医師の責務であることが盛り込まれています。参加するかどうかは、試験のメリット、デメリットを十分理解した上で、自身で判断してください。もちろん参加しないことによっても利益が生じることはありません。

当院で抗がん剤治療対象になっているのは、肝細胞がん、肺がん

ホルモン療法指針の確立へ



前立腺がんの早期発見と適切な治療をアピールするブルークロールキャンペーンのキヤラク、わかり大きな話題となりました。タリを務めた間寛平さんが、アークさんは「早く見つけられればそれだけ

早期の限局性前立腺がんは全摘すれば10年生存率が100%です。また、当院では3年前から高度医療としてロボット手術を行っている

という成績ですが、それでも医療現場では、放射線療法とともにホルモン療法がよく行われています。良好な効果があるから使っているのに欧米のデータでは推奨レベルに達していない。性機能の低下などの副作用、欧米人の感受性の違いもあると思いますが、

難治がんに対する 新たながん治療薬開発への道

源 利成氏（金沢大学がん研究所腫瘍制御研究分野 教授）

難治がんとは、進行の早いスクリス胃がん、浸潤、転移しやすく発見した時はすでに手遅れの膵臓がんなどがあります。そして、手術すら難しい、最も悪性のがんが脳に発生する「神経膠芽腫」です。周囲の脳に染み込むように急速に広がるため、手術で腫瘍を取りきれず再発することから、この30年間、脳神経外科医の苦闘に

もかわらず、予後はほとんど改善されていません。新たな治療法を求め、金沢大学附属病院脳神経外科との共同研究をもとに2年前から臨床試験を実施しています。

がんの増殖を促す酵素「GSK3β」の働きを阻害することにより、新たな治療法として注目、これまで

平均生存期間が再発後23週間に対し、新たな治療法では28週間となり、2月から金沢医科大学病院のチームがやはり

悪玉酵素を たたく新治療法



ん剤のみの治療を受け、悪性度の高い膵臓がんに対して臨床試験を開始しました。ゼロから新薬を創り出すのは莫大な労力、時間と費用がかかるので、なんとしても眼の前の患者さんを救いたいという思いで研究開発を進めています。

厳格な ルールで実施

ん白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨・軟部腫瘍、乳がん、前立腺がんです。参加については主治医とよく相談していただきます。